発言議員名がほしい

私と「みたか議会だより」

石崎　明

「コミュニティおおさわ」の編集担当、広報部会で活躍、大沢。

「議会だより」のことですか、そうですね僕の経験から感じることですけど、町の中の息づかいがもっと伝わってもいいと思っていますね。

「コミュニティおおさわ」では、みんなが興味と関心を持っていることをどんどん書くんです。身近な問題だとオッオッという感じで読んでますね。

「議会だより」の内容を面白いものにするのは編集技術だけじゃなく、市議会の審議内容そのものだと思います。

コミュニティ論議にしても〝コミュニティか福祉か〟というような施設問題は多いけど、各党、各会派のコミュニティ政策や理念は載っていません。地方自治の基礎に、まずコミュニティ住区を単位にした自治＝住区自治＝があると思いますが、市議会では、どうとらえているのでしょう。

みんなが知りたい議論を「議会だより」で公開してもらえば、議会と市民の距離も縮まるでしょう。

吉野　泰平

多摩の自由民権運動の代表的人物だった吉野泰三の曽孫、野崎。

「議会だより」を読ませていただいて、いつも思うんですが、内容や表現がちょっとむずかしいように思います。行政用語といいますか、独特の表現がありますね。たとえば「債務負担行為」、「起債」、「応能負担の原則」といったような……。こういうのは用語の解説があればと思います。

つぎに欲しいのは、発言議員名の表示です。自分が支持した議員が、どんな議会活動をしているかをぜひ知りたいですね。むずかしければ、せめて所属会派の表示だけでも……。●

吉野泰三は曽祖父にあたりますが、その当時の記録をみると、まことにひんぱんに演説会をやっています。民衆啓蒙という要請もあったのでしょうが自由民権運動が多摩の地にいぶいた時代、政治家は非常に張り切っていますね。議員さんもこの当時の意気で、市政報告をどんどんやって欲しいと思います。あわせて「議会だより」を読めば、市政が良く理解できるはずです。

霜鳥　敬子

元オリンピック・レスリング代表霜鳥武雄氏夫人、深大寺。

主人が現役のときは、新聞にときどき書かれたりして、挙式は1年も先なのに〝この秋には結婚か〟なんてね。これには参りましたわ。

その時から新聞記事は多少割引いて読むくせがついています。新聞は読ませるために、オヤと驚かせたり、マアーと面白がらせたりするのでしょうが「議会だより」はそうもいきませんね。

市政の動きをありのまま伝えて、市民が市政を判断するという姿勢が必要なんでしょうね。

そうはいっても、事実だけを書くと官報みたいで面白くないですね。「議会だより」の役割と新聞の面白さをどう結びつけるかが、問題じゃないかしら。〝その時なんとか議員は顔を真っ赤にしてテーブルを叩いた〟なんていえば、白熱した議場のふん囲気が伝わってくると思うけど……。その程度は書いていいんじゃない。●

それから、見出しですけど、見出しが面白いと、つい中身が読みたくなりますね。読ませる見出しをぜひ。

河中　二講

成蹊大学法学部教授、下連雀。

「議会だより」には興味があります。それは議会と住民をつなげる場として大事だからです。「議会だより」は秘密になりやすい行政の内部を住民に公開する役割を持つ点でユニークな広報活動といえます。

つぎに、現在の「議会だより」に欲しいのは住民に情報を提供するだけでなく、住民から情報を吸い上げるという感覚です。たとえば市民の声を生のまま載せるのも一つの方法でしょう。●

審議内容や経過も市民の声を軸に組み立てて編集すれば、もっと市民に親しまれるものになるのではないでしょうか。一つの問題に焦点をあて〝市民の考え〟〝議会の考え〟〝当局の考え〟をそれぞれつなげて見ると市民は自分たちの声がどうなっているのかを興味をもって追いかけるはずです。

「議会だより」は執行部の広報とちがいますから、議会広報の特色づけを工夫することが大切だと思います。●

木内　良子

主婦、三鷹市消費者の会世話人、上連雀。

いくら消費者の会でも「議会だより」だけは商品とちがって選択がききません。この機会に少し注文を……。●

紙質が貧弱で、ぎっしり詰まっている、そんな号がありますね。せっかくの内容が死んでしまってもったいないわ。広報は市民のアンテナだから予算をケチらないでほしいと思います。

私たちの出したサッカリン禁止の請願が採択になって、政府などに意見書を送りましたね。〝言いっ放し〟ではないと思うけど、市民の要望がどう実ったかは一番知りたいところです。その後の結果をぜひ載せてください。

福生市の消費者運動が、無添加ハムをつくり出し、好評です。食品公害もまず地元から追放することが大事だという良い例です。消費者運動も中央官庁より、まず自分達の市議会からね。「議会だより」でも市民の関心の深い問題について特集を組んでください。

井上　好正

農業、三鷹農協青年部長、深大寺。

〝深大寺の町名を残せ〟という運動をしましたが、ああいう時に「議会だより」を読めば、市議会の動きがわかるわけですね。ふだんは忙しいので、あまり読む機会がありませんが、市民として市政にも興味がでてきたので、これから読むようにしましょう。●

「議会だより」をどう考えているか考えたこともありませんが時々は議員30人のものの考えをのせたらどうでしょう。立候補の時に公約は知らされていますが、4年間の任期中には公約で対応できない重要な案件もでてくるはずです。一つの問題をめぐってでもいいから、議員の考えを知らせてもらえばありがたいですね。

大竹　茂

書店主、20年の歴史をもつ町会紙「井の頭新報」の編集者、井の頭。

「議会だより」について？　あんまり言いたいことないんですよ。でも「議員」とか「委員」とかいう表示は気に入らないな。議員はひとりっきりじゃないんだから、どの議員かわからないですよ。水道料金の値上げなら値上げに賛成したのか反対したのか、あるはずですね。議員にとっては都合の悪いこともあるだろうけど、議員は公のものなんだから、良いことも悪いこともみんなはっきり載せるべきですよ。判断は市民がするんだから。そうでなければ選挙のときだけの話になってしまいます。「井の頭新報」のような町の新聞は人情論で、良いことしか名前は載せませんが……。

出欠表や誰が居眠りしてたか、なんていうのも面白い。傍聴者に採点してもらってそれを載せるとか。いまの「議会だより」は一方的な感じが強いですね。市民は発言する機会がなくて知らされるだけですから。

白石　昌治

会社役員、元新川公団自治会長、新川。

「議会だより」は市の事業が決まるまでのプロセスを伝えてくれるから、とても参考になりますね。

「議会だより」の創刊は昭和35年ですか。新川公団が出来た年ですね。入居の年に生まれた子はもう高校生ですから、そろそろ一人前ですね。

当時、公団は文化生活の代名詞みたいでしたが、そのかわり、新住民、団地族などといわれ、市政に関心を払わないくせに注文だけはうるさいなどといわれて地域からの疎外感がありましたね。

そのうち、子供が学校に行くようになると学校施設の問題、ごみ収集や水道をめぐって、次第に市役所とのつながりも出てきました。地域とのつながりも深まり、今では新住民も旧住民も特別の意識は持っていないはずです。

当時の新住民は市に対してもするどい要求をしたと思いますが、逆に市政は新住民の感覚に対応できる能力をつけたわけで、市政にはプラスになったでしょう。最近の「議会だより」をみてつくづくそう思います。

西脇　英夫

航空宇宙技術研究所勤務、「30m道路を考える会」連絡担当、新川。

30m道路なら30m道路で運動している市民は、自分の生活に降りかかった問題ですから、議員に負けないくらい真剣に勉強していますよ。誤った認識や情報に基づいて議員が判断しないように、市民から議員への啓蒙も必要です。そのためにも市民は個々の議員の体質をつかんでおくべきなのですが、「議会だより」では議員名を出さずにぼかしていますね。議員個人に発言の責任をもたせるべきです。

市民がお互いに討論できる「ご意見をどうぞ」といった欄があって身近な人が登場したりすれば、〝われらが三鷹市議会〟の認識が高まって、市民参加の意識を養うと思います。このインタビューの企画でも、たとえば買物ついでの奥さんとか、いままで意見を表明していない人にも聞いた方が良いですよ。市民が進んで自己主張することが大事です。

佐竹さゆり

主婦、30m道路に反対している「子供の教育環境を守る会」代表、新川。

「議会だより」は、市政を知る上で市報以上に注目しています。市民が自分たちの選んだ議員さんの議会活動を知るために次の点を要望します。

①市政質問などで、質問、答弁ともあいまいな発言ならあいまいのまま記事にしてください。市民はそのあいまいさをもって判断の材料とします。

②「議会だより」の「編集要綱」によれば、「市民の市行政に対する『知る権利』に奉仕する……」とあるそうです。「知る権利」とは市民が自分の投票した議員がどのような議会活動をしているのかも含まれますので、市政質問などで議員名表示をするのが当然だと思います。いかがでしょうか。

③本会議における議員さんの出欠表常任委員会の行政視察結果もぜひ。

外立　受世

青果商、市議会基本構想審査特別委公聴会で賛成の公述、野崎。

議会報という性格上、紙面が硬いのはやむをえないと思いますが、できるだけ読みやすいよう工夫することが大切だと思います。たとえば、写真、カット、図表などを効果的に使い、視覚に訴えるようにしたらいかがでしょうか。また、むずかしい議会用語、行政用語の解説があれば便利ですね。●

市政質問に一番関心をもっていますが、質問議員名の表示をぜひお願いしたいものです。そうすれば、読者の関心は倍加しますし、議員さんも発言に責任をもつようになるでしょう。●

議会報が市民と市議会とのパイプになるという意味でひとつ提案します。議会報をテキストにして議会（市政）報告会のようなものを開催したらいかがでしょうか。市政・市議会の動き、市議会のしくみなどを解説してもらえれば市政・市議会というものが、さらに親しみやすくなります。

金子　徳好

団体役員、ベトナム戦争に反対し8年間ゼッケン通勤、上連雀。

正直な話、今まであまり熱心な読者ではありませんでした。「議会だより」は一見いかにもとっつきにくく、硬い印象をうけます。写真やカットを大胆にとり入れたらどうでしょうか。●

親しみをもたせる意味で紙面に市民を登場させてはいかがでしょうか。傍聴記や「市民の声」などというコラムを作るなどして……。●

市政質問などに議員名が表示されていませんね。編集上むずかしい点もあろうかと思いますが、自分たちの投票した議員の発言には関心をもっていると思いますので、ぜひ表示するようにしてください。

小川　一郎

教育評論家、長年にわたり市民意識を醸成する地域活動を展開、深大寺。

能動的市民による〝市民参加〟の実現が必要です。市政における問題の所在と展望を明らかにする――という視点で編集すれば、「議会だより」は受動的住民を能動的市民に変える市政テキストの役割を果たせると思います。

私も審議会の委員として基本構想の策定に関与したんですが、あの直後に市長が交替して、基本構想を修正するのかどうか、基本計画の策定はどうなっているのか、よくわかりません。これらの政策決定過程の論理を「議会だより」は明らかにすべきでしょう。●

議員名も載せるのが本当ですね。●

家に来る人には「みたか広報と議会だよりを読もう」ってすすめてるんですよ。「みたか広報」と「議会だより」をテキストに語るグループ、ありませんか、ない？　そんなふうになればね。

西　三郎

厚生省技官、医学博士、市民の健康管理に関する調査研究委員、新川。

「議会だより」を読むと議会全体の動きはわかりますが、どの議員が何をしゃべったかわかりません。これでは自分の選んだ議員の活動もわかりませんし、全体の議員を知ってもっとよい議員を選ぶこともできません。ぜひ、個々の議員の氏名を明らかにしてほしいですね。議会を市民に開く努力ですよ。傍聴すれば議員は市民に顔を向けた発言をします。「議会だより」で紙面を通じた傍聴ができるようにしてください。

4ページに請願・陳情の欄がありますね。公平に取り上げているんですがもっと整理して大きな問題点を大きく取り上げることはできませんか。それに、採択されてからどうだったか、わかりませんね。

いま市のバスで施設めぐりをしているでしょう。その日程の最後に議場を見たり委員会傍聴を組み込んだら良いと思いますよ。議員との懇談ができたらもっと良いですね。

松本　惇逸

東京天文台勤務、三鷹市体育協会会長、大沢。

市議会の動きを知るのに「議会だより」は大変役に立っています。社会教育の記事があったりすると、市議会も関心を持ってくれているなとよろこんだりしますね。

市議会の動きが限られた紙面の中によく表現されていて、見出しも良く、全体に読みやすいですよ。議員さんの勉強ぶりもよくうかがえます。

「議会だより」は市報に書けないことを載せるのが大事でしょう。市報は決定した市の施策を実施するため市民におしらせをする、「議会だより」は事業を決めるにあたって、賛成もあり、反対もあったということで批判的な記事を書く、ここが、おもしろいとこです。

難をいえば、簡潔すぎるところがあって、解説の欲しいところがあります。●

調布飛行場跡地がグランドとして暫定使用できるようになるまでの市議会の努力は大変なものでした。これまでの経過を特集でふりかえってみるのはどうでしょう。市議会の活動を知ってもらう良い機会になるでしょう。

土肥　直之

朝日新聞東京本社整理部次長、東京都市議会報研究会講師。

見出し見出し、叱られ続けて16年、100号を迎えた「みたか議会だより」の編集担当者の気持ちを推察すると、こうなるのではないか。

新聞の編集整理を長い間担当していた関係で、東京都26市の議会報を指導してきた。各市とも極めてレベルが高いが「みたか議会だより」は見出しがすぐれているのが特徴だ。簡潔で的確、そのうえ市民の立場に立ったやわらかい見出しがついている。

本職の新聞づくりも、見出しに最も精魂こめる。それだけむずかしいものなのだ。議会報と市民のつながりの第一歩は見出しから。今後も一層勉強をしてください。●

最近の名見出し――。

太陽はみんなの宝
ちょっぴり朗報　市税減税
迷惑も運ぶゴミ収集車
市政の高度成長も終わった
生活防衛　市も一役を
地域文庫に明るい光

（寄稿）